

自治体の課題、現状

安平町は、人口減少と少子高齢化の影響で単体の部活では大会に出場できる状況でもなく、合同チームで出場するほかなかった。令和2年に部活動の地域移行に向けた検討委員会を設置し、令和5年度の検討委員会の中で、令和7年度末までにすべての部活動をクラブ化する方針を決定。現在、8団体のクラブ化が完了し、2部活は取り組んでいる最中である。課題としては指導者報酬や送迎費用、運営費用の確保で、長期的な財政支援のほか、部活時代を切り取り考えるのではなく、子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築を目指している。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	157人
域内の部活動数	10部	実施した地域クラブ数	8クラブ
全体の指導者数	34人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	NPO法人アビススポーツクラブ		
主な種目	剣道、野球、サッカー、バスケットボール、女子バレーボール、男子バレーボール、ソフトテニス、陸上		
平均的な活動回数	16回/月	年間平均参加生徒実数	各地域クラブによる
参加会費	各地域クラブによる	主な活動場所	安平町内中学校 町内外社会教育施設

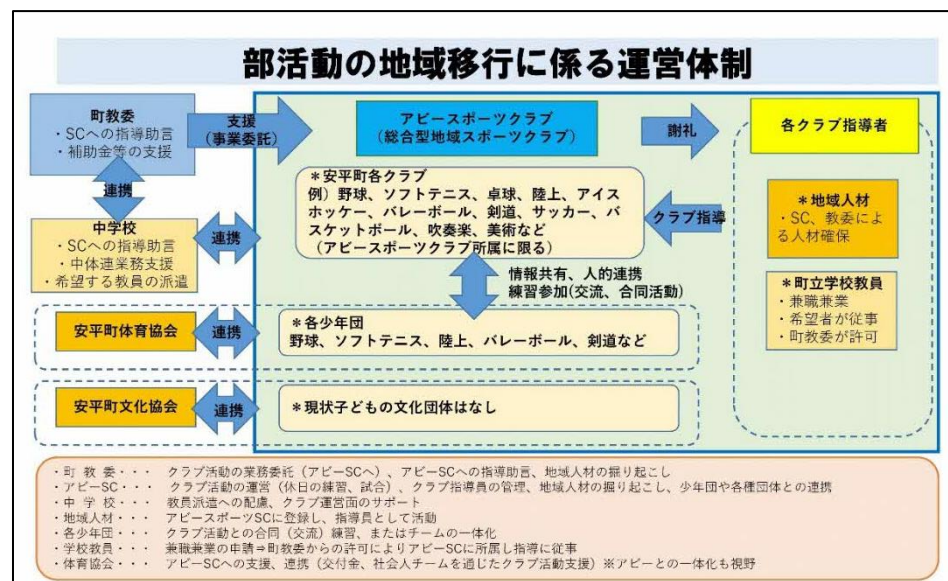
地域移行関連の取組、成果

○地域移行の主幹が学校教育Gであるため、部活動の地域移行に関する学校とのやり取りがスムーズに進んだ。また、総合型クラブと町教委で週1回の定期MTGを開催し、情報共有のほか、コミュニケーションを密に取ることで、スピード感を持って地域移行を進めることができています。

○民間企業との連携については、北海道教育委員会部活動改革推進課の協力を得て安平町の取り組みを広め、賛同する企業とのマッチングに成功した。

○町広報やローカル放送を活用し、住民の理解促進に取り組んでおり、徐々に浸透してきている。また、教員の働き方改革という視点だけでなく、少子化により活動場所が減少するという根本的な課題を説明することで、町全体で子どもから大人までのスポーツ・文化環境を構築するという点に理解を得ている。

運営体制図



自治体の課題、現状

本町には3校の中学校があり、スポーツ系クラブが8種目16クラブ、文化系クラブが2種目3クラブ活動を行っている。

そのうち少子化による部員数の減少により、野球部については町内合同チーム、サッカー部と男子バレーボール部については近隣町の中学校との合同チームで活動を行っており、今後の生徒数の推移を見ると団体競技についてはますます単独での活動が難しくなっていくことが想定されることから、今後、生徒が今後も希望する活動に参加できる環境とそれを維持する体制整備していく必要がある。

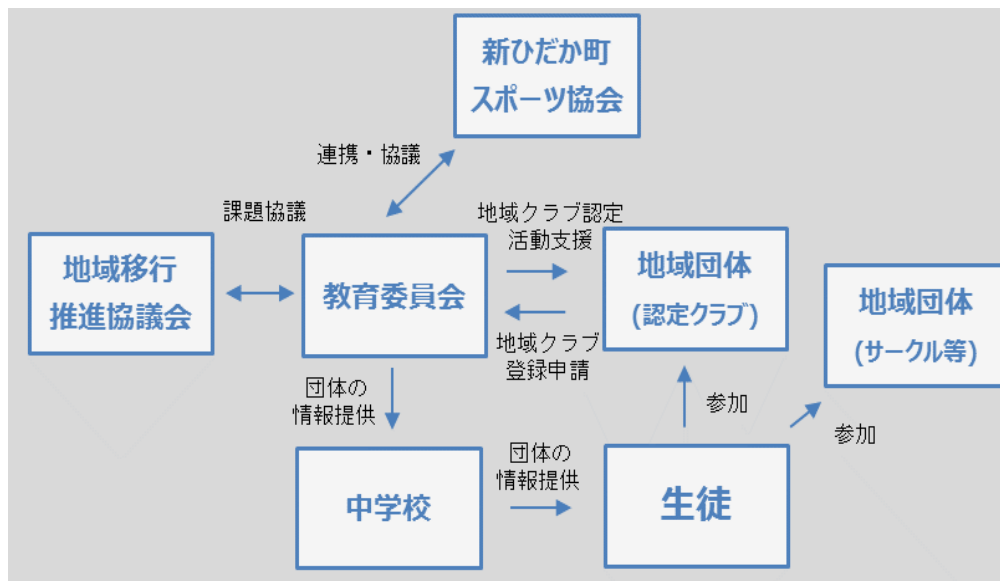
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	496人
域内の部活動数	20部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	23人	全体の運営スタッフ数	62人
主な運営団体	地域のスポーツ少年団		
主な種目	女子バレーボール、ソフトテニス		
平均的な活動回数	18回/月	年間平均参加生徒実数	3年：3.5人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：2.5人/クラブ
参加会費	18,000円/年	主な活動場所	小学校体育館

地域移行関連の取組、成果

- ・1つの学校の2種目の部活動が、平日も含めた完全移行を行った。
- ・部活動からの移行ではないが、4種目5団体が中学校体育連盟主催の大会に地域クラブとして参加した。（中学校教員の引率なし）
- ・継続した指導者確保のための支援策として指導者に対する謝金の支出を検討したが、移行先の団体より指導者への謝金ではなく、団体への活動費としての支援を求められるなど、行政の認識と団体からの要望に乖離があることが分かった。
- ・また平日の活動にかかる課題等も明らかとなり、今後の協議会等での検討材料となった。

運営体制図



自治体の課題、現状

本村における中学校は1校、生徒数は123名でスポーツ競技は4つの部が活動している。その中でも、野球部とサッカー部が既に合同で活動しないと成り立たない状況である。その要因としては、比較的都市部への移動距離が近いことも鑑み、競技志向の強い生徒はクラブチームに加入し、学校部活動には入部しない状況である。しかし、令和5年度より部活動地域移行コーディネーターを配置し、少年団9年制を目指した取組を実施。少年団9年制による団体が活動開始、保護者中心とした新たな組織整備も進められている。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	123人
域内の部活動数	4部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	剣道少年団		
主な種目	剣道		
平均的な活動回数	小学生 週3回 中学生 週4回	年間平均参加生徒実数	3年：3人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	6,000円/年	主な活動場所	村民体育館

地域移行関連の取組、成果

○地域クラブ活動「剣道少年団」

・令和6年度より、**少年団9年制**としてスタート

・指導者と中学校との**情報交換が重要**

○愛好者から指導者と転換したバドミントン協会

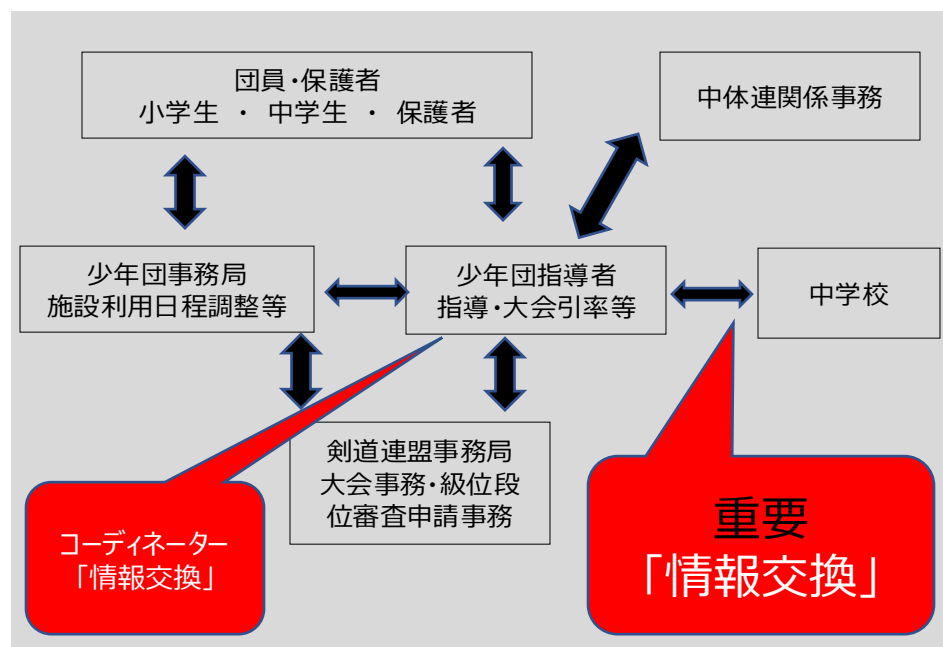
・地域の愛好者が、指導者として組織を設立

・**保護者が中心**となり、**少年団9年制**を目指した環境を整備中

○保護者が中心となり、自主練習からNPO法人組織準備中

・少年団9年制を目指した「ATHLETIC ACADEMY」教室開催

運営体制図



自治体の課題、現状

・本町においては、1校の町立中学校があり、生徒数113人で6部活が活動している。その中でも、単独校で成り立つ部活動と、複数校で活動しないと成り立たない部活動が生じている。要因としては、少子化によるもので、本町の中学校数1校となった平成24年度の207名から令和4年度の出生児が中学校に入学する令和17年度には67人（68%減少）となり、今後も急速に少子化が進行する見通しとなっている。

地域スポーツクラブ活動等の概要

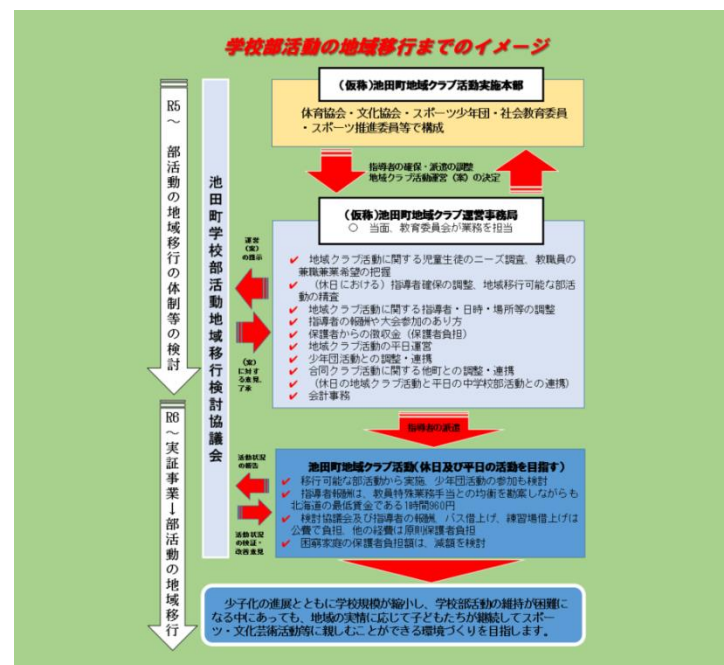
中学校数	1 校	全生徒数	113 人
域内の 部活動数	6 部	実施した 地域クラブ数	1 クラブ
全体の 指導者数	3人	全体の 運営スタッフ数	7 人
主な 運営団体	少年団、教育委員会		
主な種目	陸上競技		
平均的な 活動回数	16 回/月	年間平均 参加生徒実数	3 年 : 0人/クラブ 2 年 : 0人/クラブ 1 年 : 2人/クラブ
参加会費	10,000 円/年	主な活動場所	池田小学校G

地域移行関連の取組、成果

児童・生徒を対象としたアンケートを行い、活動したい競技等に関する質問項目の中で、中学生が活動したい種目としてバドミントンと吹奏楽が占める割合が高い結果となった。一方、小学生では中学生になって活動したい種目として陸上、美術、バドミントン、吹奏楽の占める割合高くなっている。

以上のことを踏まえ、**中学校に部活動がなかった陸上競技を地域クラブとして設立した。**

運営体制図



自治体の課題、現状

本町においては、1校の公立中学校があり、生徒数142人で運動部は7部が活動している。その中でも、個人競技は単独での活動ができているが、団体競技については、少子化の影響により他町との合同チームで活動しないと成り立たない状況が生じている。1,408.08km²の広大な面積を誇る本町において、全ての生徒に等しくスポーツ活動の機会を提供できるよう、環境を整備していく必要がある。

地域スポーツクラブ活動等の概要

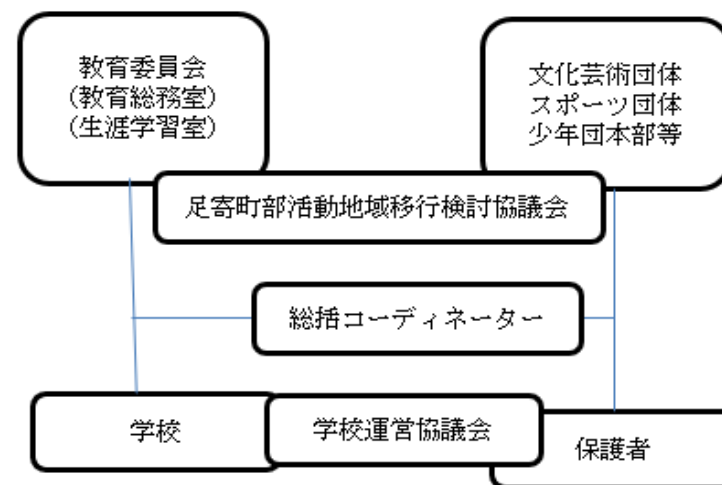
中学校数	1校	全生徒数	142人
域内の部活動数	7部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	8人	全体の運営スタッフ数	11人
主な運営団体	競技団体		
主な種目	スピードスケート、陸上、卓球		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：9人/クラブ 2年：6人/クラブ 1年：5人/クラブ
参加会費	なし（別途部費徴収）	主な活動場所	足寄中学校

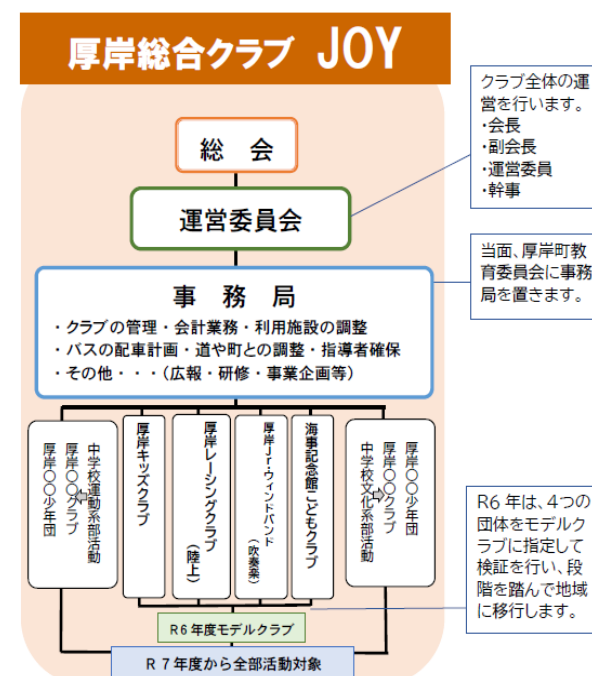
地域移行関連の取組、成果

○取組としては、全ての部活動の地域移行を目指す中、まずは先行して個人競技であるスケート、陸上、卓球の3部活動に外部指導者を配置し、現行の部活動を引き継ぐ形で体制を構築し、外部指導者による専門性の高い指導を行った。

○今後は受け皿団体の検討を主に、指導者の質を更に高めると同時に、団体競技における他町との連携の在り方を模索しながら、より多くの生徒にスポーツに触れる機会を提供できるよう体制構築を目指す。

運営体制図





自治体の課題、現状

- ・地域全体の課題は、人口減少及び少子高齢化が進行しており、大多数の町が消滅の可能性があると呼ばれている中で、いかにして地域の実情に合った方法で移行を進めていくかが問題となっている。
- ・地域移行の取組の現状は、今年度先行して2つの部活動の地域移行を実施しました。
- ・地域移行を進める上での課題は、指導者確保の問題、活動する生徒の移動手段の問題、財源確保や費用負担の問題、運営母体の問題等、様々な問題が山積している。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	3 校	全生徒数	188 人
域内の 部活動数	7 部	実施した 地域クラブ数	2 クラブ
全体の 指導者数	16 人（教員含む）	全体の 運営スタッフ数	2 人
主な 運営団体	標茶町教育委員会		
主な種目	卓球、陸上		
平均的な 活動回数	4 回/月	年間平均 参加生徒実数	3 年：23人/クラブ 2 年：15人/クラブ 1 年：13人/クラブ
参加会費	0 円/年	主な活動場所	標茶中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・町独自で指導者バンクを立ち上げ、1名の登録をいただいた。ただ、依然として指導者の確保が課題となっており継続した取組が必要。
- ・生徒の数が減少してきており、それにより部活動をする生徒の数も減少。部活動の今後の在り方や従来の部活動にはない種目や活動などやってみたいと思っているものを把握するためアンケート調査を実施した。アンケートでは部活動をやりたいと思ってもやりたい部活動がないということや、やってみたい活動としてダンスやeスポーツをやりたいという声があり、活動の多様性の検討も必要となってくるのがわかった。

運営体制図

